

平成21年度以降取り組むべき課題

～「地域のニーズに応じたバス・タクシーに係るバリアフリー車両の開発」事業～

地域のニーズに応じたバス・タクシーに係るバリアフリー車両の開発事業は平成20年度より3カ年計画で実施することとしている。平成21年度以降、平成20年度の検討結果をふまえ、予算状況を勘案しつつ以下の事項について検討していくこととする。

1. 車両ニーズ調査、普及方策の検討

- ・ 公共交通車両の使い分け方（どういう地域にどの車両がいいか）を調査する。
- ・ 普及に向けた課題を整理する。

2. 各種車両の開発・改良の検討

① 大型・中型路線バス

- ・ 今年度作成した車両イメージ案について、実現に向けた技術的な課題や車両価格を調査する。
- ・ イメージ案に基づき車両モックアップを作成し、主に論点となっている事項について事業者及び利用者の意見収集を行う。
- ・ 車いす固定について時間短縮のみならず安全性の観点からも検討する。
- ・ 現行のノンステップバスの標準仕様・認定基準について、事業者・利用者の意見、車両価格への影響等を考慮しつつ、見直しを検討する。
- ・ 次世代路線バス車両としてフルフラットバス車両のイメージ案を検討し、実現に向けた技術的な課題を調査する。

② リムジンバス

- ・ リムジンバスについて、リフト等バリアフリー対応の改造事例を調査し、課題を整理する。

③ 小型バス

- ・ 低床型以外の小型路線バスについて、リフト等バリアフリー対応の改造事例を調査し、課題を整理する。

④ ハイエース・キャラバン・コミュータークラス

- ・ 今年度試作した車両について評価を行う。
- ・ 利用者等の意見、車両価格への影響等を考慮しつつ、コミュータークラス車両の改造の標準化及び標準化による価格低廉効果について検証する。

⑤ ユニバーサルデザインタクシー

- ・ 今年度の検討を踏まえ、後乗り・横乗りのUDタクシー車両イメージ案（モック等）に基づき評価を行う。
- ・ 評価結果をふまえ、現行のユニバーサルデザインタクシーの車両ガイドラインの見直し及び標準仕様の策定を検討する。
- ・ UDタクシー車両開発に向けた技術的な課題を整理する。